

藤中 寛之

先月の投稿文「市民主体の行政区再編論議」について、様々な立場の方々から多くの意見・感想をいただいた。例えば、15年ほど前に「人口が最も多い八幡西区を分区して折尾区を設置しよう」との運動があったことを知っている人から、折尾区設置の必要性を具体的に書くべきだ、との意見があった。一方、市全体の人口減少や財政負担の観点から分区に慎重な意見等もあった。

私は分区ありきではなく、生活者の視点から各区の市民が平等でニーズに適った行政サービスを受けているのか。あるいは市の地域開発の単位として望ましい区域か、という観点等から市民が主体となって区行政の役割を見直し、分区を含めた行政区再編論議を行う必要があると思う。

そこで先月、「面積の大きい区では出張所が提供できない行政サービスについては市民が区役所まで行く必要があり、不便が生じている」との有識者委員会の提言を紹介したが、具体的にどのような行政サービス（役割）があるのか例示したい。

まず、区役所の総務企画課の①区の予算及び決算の総括や②区の災害対策、③区計画の策定及び進行管理、④まちづくりに係る企画、調査及び事業実施などがある。更に、コミュニティ支援課の⑤自治会、まちづくり協議会等の地域コミュニティの支援及びその調整、⑥区における生涯学習の企画及び調整などがあり、まちづくり整備課の⑦まちづくりに係る公共土木施設の整備における企画、調査及び連絡調整などがある。

職員数においても、例えば八幡西区の場合、区役所が314人に対して、折尾出張所が11人、上津役出張所が6人、八幡南出張所が8人である。出張所は住民票の写しの交付や市税の還付金の支払い、介護保険に係る申請等の取次ぎなどの窓口事務を中心に業務を担っている。

このように非常に多くの出張所のない区役所の行政サービス（役割）があるため、面積の大きい小倉南区や八幡西区では、市民が遠くの区役所まで行かざるを得ない不便な地区が生じているのである。

林 敏彦

6月25日、ウェルとばた大ホールで「エンジェルハートコンサート」が開催され、600人を超える方々が来られた。

第一部は、ピアノ・オカリナ・横笛のコラボや津軽三味線での「じょんがら節曲」が演奏され、静かな会場にオリジナル曲が鳴り響いた。ピアノは稲垣達也さん、和楽器奏者は木村俊介さん、オカリナ・横笛奏者は堀田峰明さんの3人が、独奏や息の合った演奏を披露した。

第2部は、世界各地で演奏している日本人ソプラノ歌手ヨーコ・マリアさんが、ピアニスト稲垣達也さんの伴奏で「さくら さくら」「アベマリア」等8曲を熱唱。

アンコールでは、ヨーコ・マリアさん自らが作詞した『命再生』、最後には『ありがとう』という曲を歌った。彼女自身「ありがとう」の言葉に尽きると語っていた。

いずれも張りのある声で、会場内に大きくこだまし、拍手かっさいであった。

ヨーコ・マリアさんは、弟さんが障がいを持つため障がい者に理解が深く、今回の障がい者と介助者、並びに福祉施設の子どもたちを約400人招待してのコンサートとなった。

聴衆の一人は『心が洗われる』コンサートであったと語った。